

平成八年度舢倉島僻地総合診療実施報告書

平成八年九月三日

舢倉診療所 又野 豊

平成八年度舢倉島僻地総合診療は8月3日、4日及び、10日、11日の2週にわたり行われ、関係の皆様のおかげをもちまして無事終了することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

本年度の実施状況を以下に報告いたします。

1. 日程、場所

眼科

平成8年8月3日(土) 午後1時～午後 6時

8月4日(日) 午前9時～午前11時30分

内科、外科(上部消化管内視鏡検査)、耳鼻咽喉科

平成8年8月10日(土) 午後1時～午後 6時30分

8月11日(日) 午前9時～午前12時

(外科のみ午前7時～午前11時30分)

舢倉島総合センター内の診療所、検査室、玄関フロア、2階会議室を使用して実施。

2. 診療従事者

医師 4名

内科 :吉田 貢一医師【市立輪島病院】

外科 :高島 一郎医師【有松中央病院】

眼科 :山村 敏明医師【公立穴水総合病院】

耳鼻咽喉科 :小森 貴 医師【小森耳鼻咽喉科医院】

看護婦 4名(石川県立中央病院より3名、輪島市より保健婦 1名)

事務職 3名

石川県庁厚生部衛生総務課より3名 計 11名

3. 診療科

内科、外科(上部消化管内視鏡検査)、眼科、耳鼻咽喉科

4 . 受診状況

のべ受診者数(受診件軌 は 1 0 6 人で、実際には7 0 人の方が受診 されました。受診 日別、年令 別、性別の受診者の分布はそれぞれ図 1、図 2、図 3 の通 りでした。

5 . 診療結果

各科の専門医の診察の結果、総受診 1 0 6 人中 6 8 人(6 4 . 2 %) になんらかの所見が認められました。図 4 に各科の有所見音数を示 します。

6 . 診療結果に対する対応

また診察の結果に対し各科の医師の方々より以下のような対応、指 示を頂きました。

内科 :経過観察(内服の継続を含む) 5 人

要精査 5 人

生活指導 2 人

外科 :胃粘膜生検施行 9 人

内服開始あるいは増量 3 人

眼科 :経過観察(定期的な診察必要者を含む) 11人

要精査 8 人

いずれ手術が必要 4 人

診察時に処方 9 人

耳鼻咽喉科 :経過観察 5 人

診察時に処置施行 2 人

診察時に処方 11人

7 . 平成元年から本年までの7年間の僻地総合診療受診者の変動

また平成元年から本年度までの8年間における各科の受診者数との べ受診者数(総受診件数)の動向を図5、図6に示します。(平成3年度 は実受診者数が正確に確認出来ませんでしたので省かせていただきま した。)

8 . 考察

総 括

本年度は過去最高の受診者を記録した昨年とは異なり、総受診者数、総受診件数とも減少しました。これは一昨年に受診者、受診件数が少なかった原因と同じく、エゴノリとりが忙しかったために受診できなかったものと思われます。特に前半の眼科診療の際は輪島方面へほとんどの海女さんが行っており、診療時間中に受診するのが困難であったこと、また後半の総合診療の際には第2日目がエゴノリを漁協に収める日と重なり、それにあわせての準備が忙しいという状況であったようです。しかし受診人数は受診件数の減少に比して軽度で、多科ではなく特定の科にのみ受診するという傾向が見られたように思います。総合診療には受診したいという島民の意識の現れと思われます。

内科

本年度もほぼ全例で血圧測定、検尿、血糖測定、心電図検査を施行しました。その中で過半数の患者で何らかの所見ありと判断され、担当医より今後の対応策を指示していただきました。

(尿所見異常 5 名、心電図異常 2 名)

ただ昨年度に比べて本年度は受診患者分布が高齢者に片寄ってありました。(本年度は14名中12名が60歳以上でした)

内科総合診療は第2次予防としての住民の集団検診の意味合いを強めたいところです。そのためにもやはり30～50歳台の人を中心に受診して成人病を含めた疾病の早期発見を心掛けたいのですが、対象者が仕事の中心となって家族ぐるみで働いている島民の現状では、本年のような現状でもなんとか受診できるような状況を作る必要があると思います。今後島民に対して、疾病の予防や早期発見目的という点での健診の重要性についての患者教育を含めた、診療所側からのアプローチのさらに必要であると痛感しました。

外科 (上部消化管内視鏡)

本年の受診者は27名と昨年を大きく上回りました。これは島民の内視鏡に対する関心が年々高まっていることのほかに、9年にわたり継続して内視鏡をされている高畠医師に対する、島民の信頼が高まっ

ていることもあります。特に第2日目には早朝7時から診療開始ということで10名前後の人がすでにセンターに待っているほどでした。

また腹部症状を有する方で内視鏡を受けるように指示した方の中には、胃潰瘍等の明らかな病変が認められた方もいました。集団検診としての内視鏡検査であるだけでなく、内視鏡のない診療所と内視鏡を受診しに行けない患者との存在する船倉島では、非常に需要の高い診療活動であると思われます。

本年度も有所見者13名中9名に胃粘膜生検を施行しました。生検の結果に対する島民の関心も高く、内視鏡、生検と行った一連の診療活動が島民に徐々に定着しつつあるようで喜ばしいかぎりです。

眼科

単科で、前半に行った眼科は本年も受診者が最高でした。視力検査、細隙燈顕微鏡検査、眼底検査などを行っていただいた結果、29名になんらかの所見が認められ、点眼処方、あるいは精密検査が必要との指示を頂きました。また本年は無症候性の眼底出血の患者が偶然発見され、翌々日には担当医師の病院にてただちに専門治療を受けるということがありました。早期発見、早期治療が的確になされた事例であり、眼科総合健診の重要性が再認識されました。

眼科健診は島民のスクリーニングという意味合いのほかに、眼科急性疾患に対する専門医診療ということや、白内障や糖尿病性網膜症といった眼科慢性疾患の、年に1回のフォローアップといった意味合いもあり非常に重要な診療科であります。山村医師の10年以上にわたる眼科診療の継続があって初めて定着した眼科総合診療であると思われます。

耳鼻咽喉科

船倉島が海女の島であるのを象徴するように、耳鼻科受診者は本年も女性が大多数を占めました。内容も耳管狭窄症や中耳炎、外耳炎といった耳科疾患が中心でした。しかし喉頭ファイバースコープや副鼻腔X線横査なども行われ専門医検診としてかなり充実したものであったように思われます。

10年以上にわたり総合診療の耳鼻咽喉科を担当しておられる小森

医師の調査と御尽力により海女の耳栓が現在のシリコン製のものになって以来、島民の外耳道がきれいになったとお聞きしました。総合検診を通して疾病の一次予防が達成されつつある点は、島民にとって有益なことであります。今後、種々の耳鼻咽喉科疾患の二次予防、ならびに、診療所医師と専門医との連携による島民の耳鼻咽喉科疾患のフォローアップの一環としての総合診療としてさらに充実させたいと思います。

9. 終わりに

本年度は島民の生活要因により、受診者数が減少しました。しかし先にも述べたように総合診療に関する島民の関心が薄れたわけではありません。今後は診療所が島民にはたらきかけ、より充実した総合診療となるように努力していかねばならないと思います

また専門医診療により、診療所では日常診療の中で対処が困難な疾患についても、的確な診断と対策の指示を得ることができました。

長年にわたり総合診療に携わっていただいている先生方の御尽力により、島民の総合診療に対する信頼や希望も高まりつつあります。今後とも総合診療を末永く続けてくださるようお願い申し上げます。